

上宮寺通信

第五十四号

家康と真宗(三河一向一揆)

今年にはNHK大河ドラマの影響もあり、地元の三英傑のひとり「徳川家康」がブームになっています。

徳川家康は「鳴かぬなら 鳴くまで待とう ホトトギス」の言葉にあらわされるように戦国乱世をじつと耐え忍び、最後には江戸幕府を開き二六〇年にわたる徳川の世の礎を築いた、まさに歴史的偉人です。

そんな家康は浄土真宗、ことに東本願寺(真宗大谷派)とは深い縁があり、家康がいなければ東本願寺もなかったかもしれません。

まず若き頃の家康と浄土真宗

の関わりといえば、家康にとっては苦い思いしかないかもしれませんが三河一向一揆が挙げられます。

桶狭間の戦い(一五六〇年)から三年ほど経った時のこと。当時、家康は今川家から独立し、尾張の織田信長と同盟を結び、三河の平定を目指していた時期でした。

三河は親鸞聖人が関東から帰洛の途中に寄られた場所であり、蓮如上人も布教の拠点としてこの地を重要視していたため、三河三ヶ寺(本證寺、勝鬘寺、上宮寺)を中心に多くの門徒がいる地域でした。

家康の父は一向宗(浄土真宗)に寛容な政策を取っていたのですが、家康の頃は門徒の力が強大となり厳しい政策に変更して

いきました。そのため反家康の機運が高まりついに衝突となったのです。

三河一向一揆の特色としては、家康の家臣の多くが真宗門徒であったということ。その家臣の中から主君の家康に従わず一向宗側に従った者が多くいたということがあります。

その中には後の徳川十六神将の渡辺守綱と蜂屋貞次、三方ヶ原の戦いで家康の身代わりとなって戦死する夏目吉信、家康の重臣中の重臣として知られる本多正信の名前もありました。

家臣団も分裂して家康は窮地に立たされるのですが、戦いが長引くにつれて家康側に有利となり最後は家康の勝利となります。

その後、三河では約二十年にわたり一向宗が禁止され多くの寺院が破却されたそうです。

家康はあやうく命を取られそうになった一向宗に対して、あまり良い思いを抱いてはいなかったと思います。しかし、後の東本願寺建立に大いに関係してくるのです。(次号へつづく)



◆行事案内

上宮寺の行事

3月8日(水)

春のお彼岸・永代経法要

時間：午前10時～

法要 引き続き 法話

(正午頃終了予定)

法話：林 祥真師(一宮市禮讃寺)

※ご参詣の際はマスクの着用をお願いいたします。

※午後の法要、お斎、呈茶はございません。

※軽食を用意いたしません。

※感染状況が極度に悪化した場合は、内勤め(参詣者なし)の法要にさせていただきます。

◆話題あれこれ

○昨年末に寒波があったものの、今年は穏やかなお正月でした。元旦の修正会にはたくさんの方にお参りをいただき、ありがとうございます。

○3月8日に「春のお彼岸・永代経法要」をおつとめします。ぜひ皆様のご参詣をお待ちしております。

慶讃法要

宗祖親鸞聖人
御誕生八百五十年・
立教開宗八百年

(第一期)3月25日～4月8日

(第二期)4月15日～4月29日

京都・東本願寺

○3月25日から京都・東本願寺にて慶讃(きょうさん)法要が厳修されます。住職は初日の3月25日(土)の法要(午後一時二十分始)に楽僧として出仕します。また4月8日(土)は法要中に舞楽が演奏され、「春庭花」という曲の時に、鼉太鼓(だいたいこ)を打つ予定です。



鼉太鼓

○新型コロナもなかなか収束せず、インフルエンザも流行あいているようです。皆様も体調には十分お気をつけください。

【雑感】

この冬は新型コロナのみならずインフルエンザの流行もあり、受験生にとってはいつも以上に体調に気をつけられないといけなくなっています。我が家も娘が受験生。しかし、「共通一次」世代の私にとって今の受験制度は複雑でよくわからない。一校を受験するのに○方式、△方式と、何度も受験のチャンスがあります。合格の可能性が広がるということではいい方式なのかもしれませんが、そのぶん飛んでいく受験料も…。体調は悪くないですが頭が痛いです。

(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547